

展示映像の記録・保存・デジタル化推進事業

一般社団法人展示映像総合アーカイブセンター

1. 本事業の概要と目的

博覧会、展示会等のイベントや、文化施設、商業施設等で上映される「展示映像」は上映期間を終えると、作品の多くは上映空間や機材が撤去されることもあり、総合的に保存されることはまれである。同時代の映像技術や表現の先進的な側面を持ちながら、映画のようなアーカイブとは無縁の映像である。この展示映像を後世に残すことをめざして、本事業はスタートした。

2. 今年度のプロジェクト目標

一社)展示映像総合アーカイブセンターにて保有している展示映像の中から、ビデオテープに収録されているためにメディアの劣化が危惧され、早急なデジタル化が必要と判断した次2作品を選定してデジタル化をおこない、データの一部公開を作業目標とした。

(1) 『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』1988年開催'88さいたま博覧会「渋沢栄一館」にて上映。16mmフィルム×3面マルチ映像,16分。フィルムは現存せず。テレシネにてダビングされたVHSビデオテープを作業対象とした。

(2) 『時の回廊への誘い』2001年山口きらら博覧会「山口市館」にて上映。レーザーディスク×3面マルチ映像、8分。ビデオ原版の存在は確認できず。レーザーディスクからダビングされたDVテープを作業対象とした。



渋沢栄一館: 左から展示ホール、パビリオン外観、映像ホール



山口きらら博覧会会場

3. 年度成果報告

(1) 『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』

作品概要: 1988年開催'88さいたま博覧会(埼玉県熊谷市) / 渋沢栄一館での上映作品、16mmフィルム3面マルチ映像、16分。スクリーンサイズは2,400×3,600×3面である。企画:さいたま博覧会実行委員会、制作:博報堂・東宝映像(現東宝映像美術)。内容は渋沢栄一の半生を描いたドキュメンタリードラマ。脚本:山岸達治、監督:川北紘一。

着手前状況: 博覧会の終了直後にテレシネにて16mmフィルムがVHSビデオテープに各巻ごとにダビングされた。フィルムは原版およびプリントともに廃棄され現存せず。唯一このビデオテープのみが残っていたため、これを作業の対象とした。着手時点ではすでに35年の経年劣化もありノイズも相応に乗っている。



VHSビデオテープ×3面分

作業経緯：3本のビデオテープは作業着手前に劣化の具合について検査を受けた。全体的にノイズ、色調の不安定、コントラスト低下などを確認後に作業方針を立てた。最終的に4Kデジタルのデータ抽出をおこなった。作業のベースがVHSのSD仕様のために、16mmフィルム以上の精細度を求めることは難しいが、補正作業により画質の向上が見られ、十分に鑑賞に堪える成果を得ることができた。委託会社は技術、精度、価格等を検討して対応可能な複数社の中からイマジカを選定した。

成果：データはUHD/ProRes 4K,DPX およびチェック用にHD/MP4,2Kを取得した。また簡易的視聴が可能になるよう、HDにて3面合成版を制作した。

Aロール（左画面）



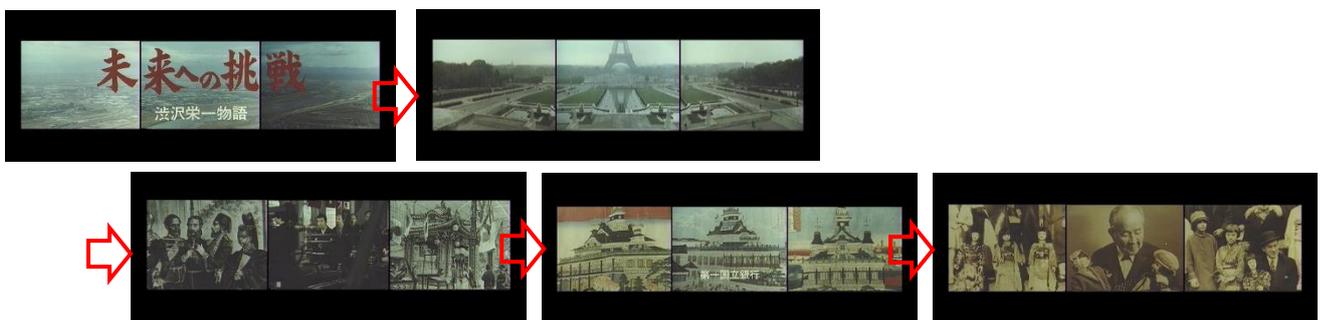
Bロール（中央画面）



Cロール（右画面）



『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』のフィルムロールごとのスクリーンショット(抜粋)



コンテンツ確認用の3面合成版のスクリーンショット(抜粋)

(2) 『時の回廊への誘い』

作品概要：2001年に開催された「山口きらら博覧会」山口市館のプロローグで上映された、3面マルチ映像作品である。観客は主展示ゾーンに入る前のホールにおいて立ち見で鑑賞した。スクリーンサイズは120インチ×3である。制作は電通大阪支社・ヒットクリエイティブオフィス(山口市)。観光都市山口市の全貌を1年にわたる取材で、四季の風景、祭、施設、観光などを抒情的に構成した作品。上映はレーザーディスク3台を同期再生した。



3ロール分収録のDVテープ

作業経緯：作業の元となった DV テープは、ダビング後 22 年を経過しているが、保存状態は良好であったためテープの物理的な変形等はなかった。画質の劣化は少しあったが、各所にノイズが見られた。また 3 画面分が連続して収録されていたため、各画面のスタートポイントが曖昧なため、画面ごとの切りとり個所の特定に時間を要した。

成果：データは UHD/ProRes 4K,DPX およびチェック用に HD/MP4,2K を取得した。また簡易的視聴が可能になるよう、HD にて 3 面合成版を制作した。

A ロール（左画面）



B ロール（中央画面）



C ロール（右画面）



『時の回廊への誘い』のビデオロールごとのスクリーンショット(抜粋)



コンテンツ確認用の3面合成版のスクリーンショット(抜粋)

4. 成果の公開に向けて

本プロジェクトの最大の成果は、経年劣化した旧メディア（ビデオテープ）から歴史的に価値のある展示映像を救済して、デジタルデータとして保存したことである。特に『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』は国内に唯一このテープだけが残されており、制作会社、渋沢史料館等にも存在しない希少な映像である。おりしも 2024 年は新一万円札の発行を控えており、肖像画に採用された渋沢栄一への関心は高い。本作品は九州大学附属図書館の所蔵資料として、無料公開に向けた作業を進行中である。

『時の回廊への誘い』はアメリカのメディアからも「2024 年に行くべき 52 か所」として今注目の山口市の紹介映像である。本作品は 2001 年の博覧会開催中の短期間に上映されたが、すでに忘れ去られた映像である。

いずれの作品も社会的に関心の高い映像であるため、著作権等の法的な課題を解決しながら公開上映に向けて作業を進めたい。

<写真資料> 一社)展示映像総合アーカイブセンター提供、(株)SD ホームページより転載、「渋沢栄一館」のプレスキットから転載、各作品からのスクリーンショット。